

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立豊ヶ丘小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
所在地 〒206-0031
東京都多摩市豊ヶ丘2-4-1
E-mail daihyo-toyogaoka-sho@city.tama.ed.jp
Website http://www.tama.ed/toyogaoka/index.html
幼児児童生徒数 男子 149 名 女子 157 名 合計 306 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「実行する子」「思いやりのある子」「健康な子」を学校教育目標とし、ESD を特色ある教育活動に位置付け、教育課程を編成している。また、校内研究として ESD に取り組み、今年度で 8 年目となる。今年度は、研究主題「かかわり、つながりを大切に、考え実行する子どもの育成」のもと、副主題「主体的・対話的で深い学びを育む指導の工夫」を設定し、生活科・総合的な学習の時間を核として、児童の主体的・協働的・探究的な学びを追究した。具体的には、校庭西側斜面に広がる 7100 m²の学校林での学習、校地内の花壇や畑で栽培活動から始める食農教育、地域連携・地域貢献につながる学習を行った。

① 学校林に係わる活動（環境・生物多様性）

6 年生の総合的な学習の時間「つなぐ・つながる～学校林プロジェクト」を中心に活動した。学校林とのかかわりを通して、自然を守ること、新たな可能性を広げることのどちらの価値も高め、自分たちの取組の成果を未来へつなげていくことを目指してきた。その結果、学校林の価値というのは、誰かが手入れをしたり、かかわったりして守らなければ、持続することができないことが理解できた。そこで、低学年のうちから学校林整備作業をはじめとした学校林に親しむ活動を意図的に取り入れ、未来につないでいく。

② 食農教育に係わる活動（食育・地域の伝統食文化）

5年生の総合的な学習の時間「地球、自然（資源）、人を守るために自分たちができることを」を中心に活動した。ゲストティーチャーによる米作り体験をきっかけに稲作のよさや課題を知り、探究活動に取り組んだ。その結果、食べ物を大切にしようとする児童が増えた。貧困問題や世界の主食など、国際理解・食文化の多様性にもつなげていく。

また、6年生は5年生から継続して麦を栽培、収穫し、多摩地域に伝わる伝統食「多摩そば（塩が入らないうどん）作り」を行った。麦をたくさん収穫してもそばになるまでにたくさんの工程があることや、たくさんの方が関わってできていることに気づき、食への感謝やこの地域の先人の知恵について思いを巡らせることができた。

③ 地域連携・地域貢献に係わる活動（福祉・防災）

3年生の総合的な学習の時間「地域の人とつながろう」では、地域のことを詳しく知ったり、地域の方と仲良くなったりすることで、自分たちが地域にできることを考え実行し、さらにつながりを深めることをゴールイメージとして取り組んだ。その結果、地域行事にすすんで参加する児童が増え、教師も児童が地域の中で育てていくことを実感することができた。

4年生の総合的な学習の時間「未来につなげるよりよい暮らし」では、聴覚障がい、視覚障がい、肢体不自由、高齢者等、どんな立場の人であってもよりよい暮らしができるようにするためにわたしたちができることはどんなことかを考え、実行した。前年度から地域と関わってきたことを活かしたことで、今年度の学習を自分だけでなく、家族や地域に広げたいという思いをもって実行することができた。

3月には学校全体で「3.11を忘れない 地域連携防災訓練」を行った。3.11の教訓をもとに地域と協力し、防災授業を通して防災意識の向上を目指した。3.11を体験していない児童が増えていく中、地域の防災意識の向上は急務である。5年生では防災デイキャンプも実施した。今後も継続して取り組み、防災意識を高められるようにしていきたい。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|-------------|
| 文部科学省ホームページ |
|-------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程全体として ESD に取り組んでおり、ホールスクールアプローチとして特色ある教育活動の 1 つとして位置付けている。指導内容については、子どもの主体性を尊重しつつ、毎年 ESD カレンダーを見直しながら、指導計画を立て直し、指導に生かすとともに、継続して学習活動を継続できるように活動内容を校内で共有している。また、開校以来 8 年間続けて ESD を研究している校内研究会で、指導方法の工夫・改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内研究会を中心に組織的な指導体制や環境をつくっている。具体的な取組としては以下のようなものが挙げられる。

- ・ 2 学年ごとに学年ブロック会を開き、互いに助言し合いながら活動内容や支援方法を工夫・改善したり、ファシリテーターとしての教師の指導法について検討した上で授業実践をしたりした。
- ・ 教育連携コーディネーターによる地域人材の活用。
- ・ マンパワーとして活用した人材を整理し、引き継いでいる。
- ・ 校内研究授業を行い、全職員で児童の活動の様子について検討、授業改善のための協議を行うとともに、講師の指導・講評によってさらなる改善点や今後の方向性を確認した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年間 2 回、児童アンケートを行い、実態把握、その変容を見取っている。それにより、子どもたちはどのような学習活動も主体的に、対話的にかかわって取り組んでいることが分かった。一方で、学校林に関する意識について日頃から学校林にかかわる学年とそうでない学年とで開きがあった。本校の魅力である学校林の価値を持続可能なものにするため、今後は全学年が学校林での活動を意識的に取り入れるとともに、職員自らが学校林に足を運び、気づきを共有し、学んでいく時間を十分に確保することが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

12月に「エコプロダクツ2017」に参加し、学校林の取組を発信した。2月に体験交流型学習発表会「とよばあく」を行い、全学年児童が年間の教科横断的・総合的な学びの成果を発信した。それらにより、人との交流を通して自分たちの活動の価値を見出し、学びを発信していく力が身に付いた。さらに、年間を通して学校ホームページに全学年の学習の様子を掲載し、情報を発信した。このことは保護者、地域の方々に学校や子ども達のことを理解してもらうことにつながり、活気ある町づくりの一助となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・多摩市グリーンボランティア森木会 ・多摩市グリーンライブセンター
・豊ヶ丘の杜 フレンドツリーサポーターズ ・樹木医 香川淳氏
・パルテノン多摩歴史ミュージアム 学芸員 仙仁径氏
・多摩市教育委員会 教育振興課コーディネーター
・ユニクロ服のチカラプロジェクト事務局 ・多摩市国際交流センター
・日本財団パラリンピックサポートセンター・多摩市社会福祉協議会
そのほか多くのネットワークを生かし、活動してきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

多摩市立多摩第一小学校、多摩市立連光寺小学校との交流授業を行った。高い土地、木に囲まれた本校と多摩川がすぐ近くにある多摩第一小学校、古くからの里山が残る連光寺小学校と交流することで、その土地それぞれの魅力に気付くことができた。また、それらと比較することで、自分たちの通う学校や住む場所のよさや課題について考えを深め、多様な生活文化があることに気付くことができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

関係諸機関や企業などからの情報提供、活動支援資金援助があり、それをもとにした活動ができるようになった。たとえば、ESD アシストプログラムにより購入したゴールボール用品を授業で活用したり、ユニクロ服のチカラプロジェクトの活用で近隣保育園との交流が実現したりした。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

多摩市のユネスコスクールとしての学校づくりの姿勢を明確にした持続発展教育・ESDホールスクールアプローチの下、学校林の活用・再生、食農教育、地域貢献を重点に推進する。そのために、持続発展教育・ESDの視点に立った学習指導・特別活動等を充実し、持続発展教育・ESDが目指す力や態度（批判的に思考・判断する力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、つながりを尊重する力、責任を重んじる力）を育成する。特に、学校林の活用・再生はその持続性に危機的状況がある。次年度も重点課題として、学校、保護者、地域が一体となり、地域の専門家や市民ボランティア等と連携して取り組んでいく。また、エコプロダクツやとよばあく等で学習成果を発信し、実行・実践の振り返りや児童の自己評価、価値づけの機会とする。